

大 阪 市

天王寺・阿倍野地区交通バリアフリー

基本構想

平成15年4月

- 目 次 -

はじめに

1. 基本理念・基本方針	1
1-1. 地区の概要	1
1-2. 基本理念・基本方針	3
2. 重点整備地区	5
2-1. 交通バリアフリー法での考え方	5
2-2. 大阪市での考え方	5
2-3. 天王寺・阿倍野地区における重点整備地区	6
3. 主要な経路	7
4. 整備の基本的考え方と整備内容	9
4-1. 公共交通	9
4-1-1. 駅舎・鉄道車両	9
4-1-2. バス車両	12
4-2. 道路・交差点・乗り換え経路(地上と地下の連続性)・地下街	13
4-2-1. 整備の基本的考え方	13
4-2-2. 整備内容	15
4-3. 案内・誘導	18
4-3-1. 基本的な考え方	18
4-3-2. 整備内容	18
4-4. その他	19
4-4-1. ソフト面	19
4-4-2. 建築物へのバリアフリー	19
5. 継続的な改善にむけて	20
付属資料1. 天王寺・阿倍野地区交通バリアフリー基本構想の検討体制	21
付属資料2. 天王寺・阿倍野地区交通バリアフリー基本構想の検討経緯	22
付属資料3. 市民・当事者からの意見聴取(わがまちウォッチングの実施)	23
付属資料4. 阿倍野再開発事業に伴う歩道整備スケジュール	25
付属資料5. 天王寺・阿倍野地区の課題	26
付属資料6. 主要な経路の路線名	27
付属資料7. 天王寺・阿倍野地区基本構想検討会議における意見とその対応	28
付属資料8. 大阪市(梅田・難波・天王寺阿倍野地区) 交通バリアフリー基本構想素案に係る、パブリックコメント結果一覧表	30
付属資料9. 用語の解説	35

文中の(*)印を付けた用語は、「付属資料9:用語の解説」に示す。

はじめに

我が国における急速な高齢化の進展とあわせ、障害者等の社会参加に関するノーマライゼーション^(´)の理念の広がりをうけ、高齢者、障害者等の自立した日常生活及び社会生活の確保の重要性が増大してきています。そのため、高齢者、障害者等の公共交通機関を利用した移動の利便性及び安全性の向上が急務となっています。

そういった状況を踏まえ、公共交通機関の各種施設のバリアフリー^(´)化や鉄道駅周辺の道路や駅前広場等の移動経路における段差の解消などを、2010年を概ねの目標に一体的に取り組むことを目的として、平成12年11月に「高齢者、身体障害者等の公共交通機関を使った移動の円滑化の促進に関する法律（いわゆる「交通バリアフリー法」）が施行されました。

大阪市では、従来より、「大阪市ひとにやさしいまちづくり整備要綱」^(´)に基づき、だれもが安全で快適に暮らせるまちを目指して、様々な施策に取り組んできました。今回の交通バリアフリー法に基づく取り組みにおいても、高齢者、障害者等をはじめ、誰もが安全・快適に移動ができ、人々が集まり交流する、活気にぎわいのあるまちづくりを目指して、ユニバーサルデザイン^(´)の考え方に十分留意し、交通バリアフリーを推進します。

推進にあたっては、バリアフリー整備を先導してきた、大阪市のこれまでの歴史を踏まえ、既存の豊かな設備資産を活用し、よりレベルの高い空間作りを進めるだけでなく、これらの設備資産をより実効あるものとするため、バリアフリー情報の提供、ソフト面の取り組みも一体として進めてまいります。

この基本的な方向のもと、まず、最初に梅田、難波、天王寺・阿倍野の3地区で基本構想を策定し、その他の地区においても、優先順位を設け、順次基本構想を策定していきます。

梅田、難波、天王寺・阿倍野の3地区の基本構想を策定するにあたっては、大阪市内で初めて策定する基本構想であることから、学識経験者、高齢者・障害者の代表、関係する事業者・行政機関、大阪市内で構成するワーキングで、大阪市の交通バリアフリー推進の基本的な考え方をまとめ、これを基本に各地区の特性を付加するため、地区毎に、学識経験者、地域の代表、高齢者・障害者の代表、関係する事業者・行政機関、大阪市内で構成する検討会議を設け、地区の意見反映に努め、各地区の基本構想としてとりまとめました。

基本構想策定後は、公共交通事業者、道路管理者、公安委員会等関係する事業者がそれぞれ事業を実施することとなりますが、大阪市内では関係する事業者とともに、また、市民の皆様の参画、理解と協力のもとに、継続的な改善に努めてまいります。

平成15年4月 大阪市

1. 基本理念・基本方針

1 - 1. 地区の概要

1. 鉄道の1日の利用者は、4駅で約82万人と、梅田(246万人/日)、難波(97万人)に続く大阪の三大ターミナルの一つである。

2. 交通機関相互の乗り継ぎ拠点となっている。

表 1.1 鉄道駅の利用者数

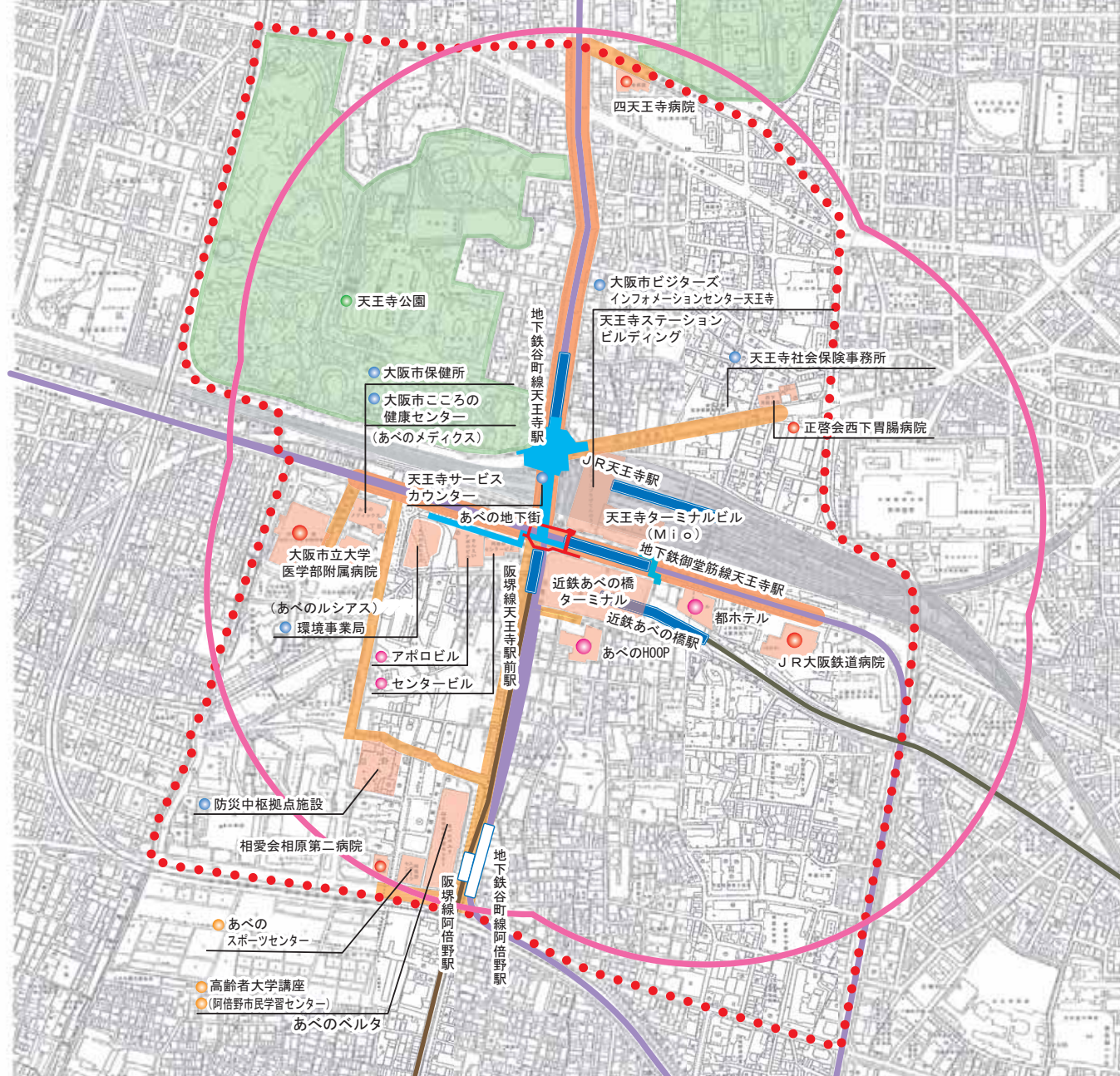
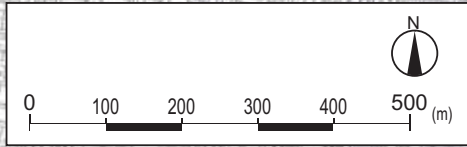
路線名	駅名	乗降客数(万人/日)
御堂筋・谷町線	天王寺駅	28.0
上町線	天王寺駅前駅	1.1
近鉄(南大阪線)	あべの橋駅	21.4
JR(関西本線)	天王寺駅	31.5

3. 駅周辺には商業施設もあり、多くの人が集まる。歩行者も多いが、自転車の利用も多くみられる。

4. 天王寺・阿倍野地区は、商業施設が駅周辺に多く、さらに大阪の観光名所である「天王寺公園」や「四天王寺」が近くに立地する。また、「大阪市立大学医学付属病院」、「JR大阪鉄道病院」といった医療施設もある。



図 1.1.1 天王寺・阿倍野地区の位置



凡例	
●	公共施設
●	商業施設
●	医療施設
●	文化施設
●	老人福祉施設
●	公園・緑地等
●●●●	重点整備地区範囲
▬	特定旅客施設
▬	地上部のネットワーク
▬	地上部のネットワーク (音響信号設置)
▬	地下部のネットワーク
┌┐	歩道橋

1 - 2 . 基本理念・基本方針

1-2-1 基本理念

交通バリアフリー⁽¹⁾化による移動の円滑化を図り、賑わいのある人にやさしいまちをめざす

天王寺・阿倍野地区は、大阪市を代表するターミナルの1つであり、交通と人の流れの結節点となっている。これまで施設毎にバリアフリー化に向けた取り組みが進められてきたが、これらの施設のバリアフリーのネットワーク⁽²⁾化が十分に図れているとはいえ、さらなるバリアフリー整備の質の向上、移動の円滑化の促進が求められている。

本基本構想に基づき、駅舎、歩道、信号機等の施設のバリアフリー化を促進するとともに、駅舎から駅周辺徒歩圏内の主要な施設への移動の円滑化を図り、「楽しく」、「快適」に移動できる交通バリアフリーの整備を行う。そして、誰もが駅から施設、駅舎間、地上と地下との移動がしやすいまちとすることにより、賑わいがあり、人にやさしいまちをめざしていく。

また、ハード整備だけではなく、施設の利用の仕方、マナーの向上、交通バリアフリーに対する認識の向上を図ることも重要である。情報提供やコミュニケーションの充実等、みんなで考え、みんなで取り組む交通バリアフリーにむけた施策やしきみづくりも進めていく。

1-2-2 基本方針

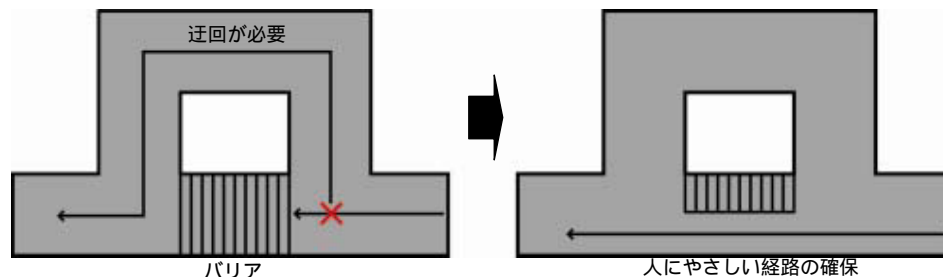
人にやさしい経路の確保

【現状の課題】

天王寺・阿倍野地区では、駅間の乗り替え、地上の移動、地上と地下の連続性が十分に確保されていない。そのため、車いす利用者は大きな迂回となる場合があり、高齢者、子供連れの方も移動に大きな負担を伴っている。

【基本的考え方】

駅舎間、駅から施設間、地上・地下間の移動の負担を極力少なくするための上下移動施設の検討、歩道整備、ソフト対策等を進めながら、可能な限り遠回りにならない人にやさしい経路を確保していく。



人にやさしい施設の整備

【現状の課題】

駅舎施設、歩道施設、信号機等の整備において、よりきめ細やかで、誰でも使いやすいバリアフリー整備が求められている。

わがまちウォッチングによる課題例(駅・歩道・地下街)



券売機の蹴り込みがほしい



歩道の幅が狭い箇所がある



点字ブロックの色がわかりにくい



使いやすいエレベーターがほしい



放置自転車等が多い



多様な情報提供がほしい

【基本的考え方】

ガイドライン⁽³⁾や当事者、市民の方の意見を参考に、各施設のより質の高いバリアフリー整備を進めていく。また、効果的、効率的なバリアフリー化を図っていくために、整備の実施時期をふまえながら、重点的な整備を行っていく。

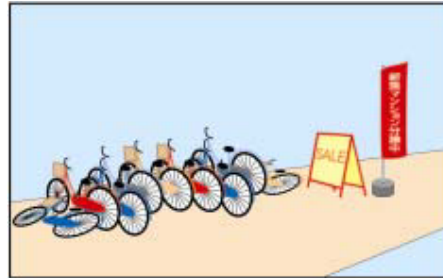
人と人がふれあうバリアフリー

【現状の課題】

案内情報といった情報提供の充実、放置自転車や違法看板の撤去等、継続的なバリアフリーの推進を行っていくためには、ハード整備だけではなく、人の手によるサポートやコミュニケーションの充実による案内誘導や施設利用支援の推進といったソフト施策の充実や、しくみづくりが求められている。



ソフト施策も含めた情報提供の方法を検討することが必要です



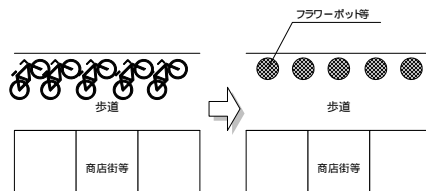
歩道の不法占拠物の問題は、モラルの向上や地域との連携が求められます

【基本的考え方】

地域の実情をふまえながら、地域住民、地元事業者、ボランティア団体等と連携したしくみづくりや、情報提供、広報・啓発活動に取り組むといったソフト施策を進めていく。

参考～地区内でのこれまでの取り組み事例～

阿倍野一丁目東商店会での取り組み事例



放置自転車の多い区間においてフラワーポットを設置し、取締まりを強化。フラワーポットの管理と並行して放置自転車の取締まりを行うことにより、放置自転車の数が激減した。



実施区間南側の状況



実施状況

まちの将来像を見据えたバリアフリー

【現状の課題】

天王寺・阿倍野地区では、「阿倍野再開発事業」等のまちづくり事業が進行中であり、まちの将来像が今後大きく変わっていくことが予想される。

【基本的考え方】

関連事業の進捗状況にあわせたバリアフリー整備を進めていく。まちのあるべき姿を見据えながら、短中期的に実施可能なこと、長期的な目標とすることを明確にし、柔軟な対応を図っていく。

2 . 重点整備地区

天王寺・阿倍野地区における重点整備地区を以下のような考え方に基づいて設定する。

2 - 1 . 交通バリアフリー法での考え方

「交通バリアフリー法」では重点整備地区の範囲設定に関して次のような方針を示している。

徒歩圏として一体的に整備すべき重点整備地区は、特定旅客施設から概ね500m～1km以内とする。但し、具体的な区域設定は、高齢者・身体障害者等の特定旅客施設からの移動の状況、施設の分布状況を踏まえて判断することが必要である。また、区域は、できる限り町境・字境、道路、河川、鉄道等の施設、都市計画道路等によって、明確に表示して定めることが必要である。

2 - 2 . 大阪市での考え方

大阪市では、複数の駅が集中していることから、駅相互の乗り換え状況及び各駅から概ね500m圏の重なり状況、また、駅周辺の公共施設及び商業施設がどのように分布しているかを考えながら、道路・河川・鉄道などで区域を設定していく。

